

遥か向こうの空の彼方から

少しだけ冷たい空気
少しだけやさしい空気

遥か向こうの空の彼方から
季節変わる風がやってきた
夏の名残 密かに抱え
街をそっと撫でる

気づいた時 もうそこには
楽しい日々 置き去りにされ
誰かを呼ぶのでなく
何かを忘れたまま

季節のこの扉をたたき
その風ただ通り過ぎる
これから訪れる
秋の気配が

少しだけ冷たい空気
少しだけやさしい空気

人々の影 細く揺らして
どこか遠い記憶運んで来る
夕暮れひとしづく混ぜたような
輝きまぶたの裏に

気づいた時 もうそこには
この心だけ 置き去りにされ
誰かを探すのでなく
何かをなくしたまま

この季節の扉をたたき
ただその風は通り過ぎる
秋の始まりを
そっと受け止める

少しだけ冷たい空気
少しだけやさしい空気